



## #20 安全・安心への備え

# わが家の防災力を高めよう

日本は世界で発生する1割もの地震が集中して起きている地震大国。

しかも近年、日本列島下のプレートの動きが活発化しており、

多くの専門家が本格的な地震活動期に入ったことを指摘しています。

政府の地震調査委員会も従来の予測を大幅に見直し、

日本の半数以上の都道府県で、今後30年以内に震度6以上の地震に

高い確率で見舞われる可能性があるとして予測しています。

そこで積水ハウスの防災に関する研究をもとに、

わが家で行なえる防災対策「安全・安心への備え」を特集しました。

## 大地震発生！ グラツときたら、 まず自分と家族の身を守る

昔は「地震が起こったら、まず火を消す！」と言われていたこともありましたが、現在は、都市ガスやLPガスは震度5程度の揺れを感じると自動的にガスの供給を遮断して火が消えるようになっていきます。逆にあわてて火を消そうとすると、かえって飛び散る

熱湯や油などによって火傷や怪我をする危険が高まります。

実際に大きな地震が起こった場合、何もできないことがほとんどです。揺れを感じたり、緊急地震速報を受けた時には、自分と家族の身を守ることを最優先に行動しましょう。クッションや枕など身近なもので頭を保護し、倒れてくる可能性のある家具などから離れて、頑丈なテーブルの下などに素早く避難。揺れが収まるまで様子を見るようにしましょう

よう。揺れている最中に外へ飛び出したり、家具や家電機器を支えるなどの行動は禁物です。

マンションの高層階では、揺れが長く続くこともありまので、十分に揺れが収まるのを待ちましょう。大きくゆっくりとした揺れによって、家具や家電機器が横滑りしたり転倒することがあります。激しい揺れが収まったからといって、あわてて行動しないことが大切です。

## 揺れが収まったら、 家族の安全確認をして 次の行動へ

地震発生後、最初の揺れが収まったら、まず一緒にいる家族の安全状況を確認し、二次災害の予防や避難など、次の行動に移ります。具体的には、火の始末を忘れないこと。出火

また、家族の安全確認と同じく、お隣や同じフロアの住民の安全を確認することも大切です。近隣同士で声を掛け合って、負傷した住民の救助や初期消火活動などにも積極的に取り組むようにしたいものです。

## 大地震が発生したら、 マンションでは どんなことが起こる？

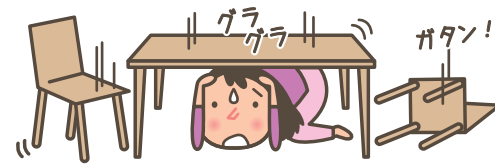
万一の時にあわてないように、大きな地震が発生すると、どのような事態に見舞われるのかを事前に知っておくことも大切です。

まず、住戸内では停電となって、家電機器や照明器具が使えなくなることが考えられます。固定電話やファックスも使えなくなり、携帯電話も回線が混み合って通じにくくなります。外部との連絡が閉ざされやすくなります。ガスも自動的にストップし(震度5程度以上の場合)、IHでなくてもコンロの使用ができませぬ。水道も止まることもあり、まったく

## 地震発生時の居場所と対処法

### リビングやダイニングで 過ごしていたなら

- 大きな家具や窓ガラスなどから離れる
- クッションや座布団、雑誌などで頭を保護する
- ダイニングテーブルの下などに身を寄せて、転倒物や落下物から身を守る



### キッチンで家事などをしていたら

- 倒れる恐れのある食器棚や冷蔵庫から離れる
- 火の始末に気を取られずに速やかにキッチンから出る
- ダイニングテーブルの下などに避難する



### 浴室・洗面室・ トイレにいたら

- 鏡やガラスの近くから離れる
- ドアを開けて避難路を確保する
- 入浴中のお風呂のフタなどで頭を保護する



### 寝室で眠っていたなら

- 布団や枕などで頭を保護する
- 倒れる可能性のある家具類の近くから離れる

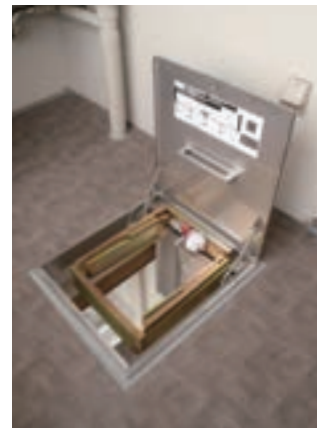


### バルコニーで 過ごしていたなら

- 窓ガラスから離れる
- バルコニー手摺などに掴まらないようにする
- 履物は脱がずに室内の安全な場所に移動する



バルコニーの避難ハッチ(写真右)や隔板(写真上)は、災害時の大切な避難経路になります。日頃から物を置いてふさがないように注意しましょう。



ふだんの生活機能がストップしてしまいます。また、マンション共用部への影響も大きく、とくにエレベーターは、揺れや地震波を感じると管制運転によって最寄り階で停止してドアが開くようになっていて、その後は地震から復旧するまで使用できなくなります。もし地震発生時に乗っていたら、扉が開いた階で速やかに降りるようにしてください。

そのほか、インターホンも使用できなくなり、エントランスのオートロックも開放状態となつてセキュリティ機能が低下。機械式駐車場も作動しなくなり、車を出すことも難しくなります。共用廊下などの非常用照明は作動しますが、点灯時間は30分程度が限度。夜の地震発生では、建物全体がほぼ真

## 万一の時に備えて、家族みんなで防災会議を開こう

最近では防災グッズや非常用備蓄品などを用意されているご家庭も多くなり、一般的に防災意識が定着してきたといえるでしょう。グランドメゾンでは各管理組合などによって防災備蓄品類を常備しているケースもありますので、あらかじめ備蓄場所や内容を確認しておくようにしましょう。

また、大きな棚などの家具類を壁に固定しておくという知識も今では常識化しています。

が、ご自宅での対策は万全でしょうか？

そして、もうひとつ大切なのが「わが家の防災会議」です。地震はいつ、どこで起こるかわかりません。その時、家族みんなが同じ場所

で一緒に過ごしているとは限りません。だから一人ひとりがきちんと行動できるように、事前に家族で話し合っておくことが肝心です。



## 地震発生で起こること

### 住戸内

#### 停電で家電機器や照明器具が使えない

懐中電灯や電池式のラジオ、発電機能付きの家電機器を準備しておくことと安心。

#### ガスや水道がストップ

カセットコンロや飲料水の買い置きなど、事前に非常用備品を備えておくことが大切。

#### 電話やファックスが通じない

携帯電話やタブレット端末は通じる可能性があります。充電ができなくなるので注意が必要です。

#### インターホンや警報装置が作動しない

停電中はインターホンも補助電源のない警報装置もストップ。来訪者の確認ができません。

### 共用部

#### エレベーターが使用できない

エレベーターの復旧には時間がかかり、その期間は非常用階段を利用することになります。

#### 非常用照明は30分程度が限度

非常用照明は停電時に共用廊下や階段を照らすように設計されていますが、点灯時間は30分程度です。

#### 機械式駐車場が作動しない

自走式の平面駐車場の場合もシャッターが機能しなくなり、車を出せないことがあります。

#### セキュリティ機能が低下

エントランスのオートロックは開放状態となりますので、各戸で防犯意識を高める必要があります。

## わが家の防災会議で行なっておきたいこと

### 1 ハザードマップをチェック

自治体などで用意されているハザードマップで、自分の住む地域の避難場所や避難経路を確認しておく。

### 2 大地震に備えたわが家の安全確認

危険な箇所がないかを確認するとともに、地震の時に身を守りやすい安全な場所を確認しておく。

### 3 避難場所まで実際に歩いて確認

指定されている避難場所・避難経路を、昼間と夜間にそれぞれ歩いてみて、距離感や時間などを実感しておく。

### 4 備蓄品の内容と保管場所の確認

期限切れの食品や薬がないかを確認し、いざという時に誰が持ち出すかなどについて話し合っておく。

### 7 家族の連絡方法の確認

災害用伝言ダイヤル(171)やツイッターなどの活用方法をチェック。情報の中継点となる遠隔地の親戚などを確認しておく。

### 6 災害時の行動確認

自分の身の守り方や地震の揺れが収まったあとの行動などについて、家族で共通したルールを確認しておく。

### 5 非常持ち出し品の準備と確認

衣類などは季節によって内容が異なることに注意し、入れ替えや持ち出し担当の役割を決めておく。



## さまざまな防災機能を備えたグランドメゾンも

グランドメゾンには、たくさんのお客さんが集まって暮らす集合住宅ならではのメリットを活かし、個人の家庭レベルでは整備しにくい防災設備を設置している物件もあります。

たとえば、非常用の水を確保するために「雨水タンク」を地下に埋設し、その水を飲料水として活用できるように「飲料水生成システム」を備えたり、水道が復旧するまでの期間、生活用水として使える井戸を設けるなどの工夫を施しています。

また、ガスや電気が使用できない場合に、かまどとして利用可能な「かまどベンチ」や、断水した際にマンホールの上に設置して使用できる「非常用マンホールトイレ」などを用意している物件があります。

ているマンションもあります。災害対策用設備の内容や有無は物件によって異なりますので、お住まいのグランドメゾンの管理組合などで確認しておかれると良いでしょう。



ガスや電気がストップした災害時に活躍する「かまどベンチ」。腰掛けになっているフタを開ければ、安全に火をおこせるかまどになります。



1日最大15トン・約4800人分の飲料水を生成する能力を持つ「非常用飲料水生成システム」。災害時には防火水槽などから安全な飲料水を確保します。



災害時の生活用水として利用できるように、13000ℓの雨水を溜められる「雨水タンク」を中庭の地下に埋設。普段は敷地内の小川や植栽の散水として利用しており、大切な水資源の保全にも貢献しています。(ランドメゾン西九条B10(大阪府))

敷地内のマンホールに直接つなぎ、水を使わずに利用できる「非常用マンホールトイレ」。災害時の断水によって起こるトイレ問題を解決します。



## ペットだって被災する！愛犬・愛猫を守るための備えを

大きな地震が発生したら、危険な目に遭うのは人間ばかりではありません。家族の一員として暮らすペットたちも同じように危険に遭遇することになります。万一の時に家族と同様に、ペットのための備えも考えておきたいです。

いものです。また、地震でパニックを起こして行方不明になったり、迷子犬・迷子猫として避難所に收容される場合もあります。迷子にならないように、そして、とくに犬の場合は、避難所などで他の犬たちと一緒に過ごすという環境の変化にも対応できるように、日頃から基本的なしつけを心掛けておきたいものです。

### ペットのための非常用グッズ



### トイレ用シート、タオル類

使い慣れたトイレ用シートを約1週間分と専用のタオル類も用意しておきましょう。



### 食べ慣れたフード、飲料水

賞味期限に注意して、約1週間分を目安に備えておきます。食器も合わせて用意しておきましょう。



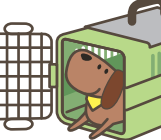
### 薬類

服用している治療薬がある場合は、予備も含めて約1週間分を目安に用意しておきましょう。



### ケージ(小型犬・猫の場合)

一緒に移動したり、落ち着いて過ごせる居場所を確保するという面でも有効です。



### リード、首輪など

リードと首輪に加えて、飼い犬登録の鑑札や予防接種の証明書なども用意しておきましょう。



### 愛犬が避難所生活に慣れるために日頃から心掛けておきたいこと

#### ③ 飼い犬登録を忘れずに

被災時には、飼い犬登録されている犬から優先して保護されるケースもあります。必ず登録を済ませ、鑑札や狂犬病予防注射済票を付けておくようにしましょう。

#### ① 基本的なしつけをしっかりと

むやみに吠えない、「待て」や「伏せ」「ハウス」など、基本的なしつけを徹底しておくことが肝心。また、ふだんから他の人や犬と交流して社会性を身につけておくようにしましょう。

#### ② 必ず予防接種を受けておく

避難所に犬が收容される場合は、犬同士をまとめて1カ所に集められることがあります。いろんな犬が集まれば病気などに感染しやすくなりますので、予防接種や去勢・避妊手術を受けておきましょう。

#### ④ 飼い主の連絡先を明示しておく

迷子になった場合は、飼い主が特定できることが重要です。ふだんから室内にいる時も飼い主の連絡先を記した名札やICチップ付きの首輪などを付けておくようにしましょう。

#### ⑤ 預けられる場所を確保しておく

避難所によって犬の收容が難しく、飼い主だけが避難所生活になる場合もあります。そのような時に預かってもらえる知人宅やペットホテルなどを準備しておくことも大切です。